

2025年(令和7年)

9月5日

金曜日



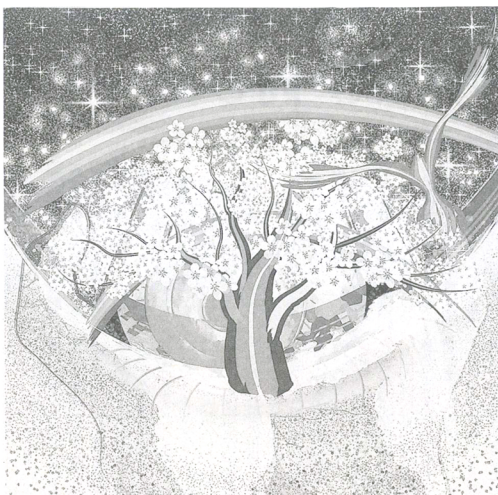
朝日新聞東京本社

〒104-8011

東京都中央区築地5-3-2

電話 03-3545-0131 www.asahi.com

指先で描く「生きている証」



「使命とは己の命の使い道」=いずれも本人提供

カラー充実
紙面70ページ
登録無料



「Along The Lakeside」

「命の使い道」見つめ直すきっかけに

介護福祉士の資格を持つ妻と結婚し、介護受ける病状は進み、絵筆を握れなくなった。そこで、2001年からわずかな指先の動きだけで、電子ペンとタブレットを駆使して絵を描けるCGの分野で制作に取り組みようになった。07年からはIT企業にも就職し、在宅勤務も続ける。約30年、仙台で家庭や職場、医療の場で支えを受け、感謝の思いが膨らんでいった。展示が少しでも恩返しになることを願い、毎年制作を欠かさなかったオリジナルカレンダーの挿絵から今回、展示作品を選んだ。

今回の個展はCG画5点のほか、時と絵のパネル5点の作品を展示。仙台で個展を開くのは約20年ぶり。タイトルには「使命とは己の命の使い道」を掲げた。

タイトルの意味について、山下さんは記者にメールでこう説明した。「使命とは特別な人に与えられるものではない。私にとって『生きていく証』である創作を通して、自分自身の『命の使い道』を見つめ直すきっかけになっただけです。色彩豊かなCG画で

筋肉が衰える難病、進行性筋ジストロフィーの画家・山下重人さん(52)の個展が、仙台市青葉区のせんだいメディアテークで5日から始まる。指先のわずかな動きだけで描いた作品は、色鮮やかで、温かい。そこには、闘病への感謝の思いを込めているという。

山下さんは1973年に宮城県で生まれた。3歳のとき、祖父が歩行のペースに絵を描く日々、異変に気づき、病院の検査を受けたところ、難病の進行性筋ジストロフィーと判明。父の仕事の都合もあり、リハビリを受けることになる。



進行性筋ジストロフィーの画家・山下重人さん



難病の画家・山下重人さん 仙台で20年ぶり個展

「海星をみる少年」